

緑の地球

GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力

多様性のある森づくりを	P 2
●NPO 法人申請へ	P 3
●GREEN ECHO	P 4
北からの手紙	P 7



ここ数年、暖冬つづきの黄土高原。今年の冬はどうなのだろう (撮影：橋本紘二)

GENに参加するには

- ☆会員・会報購読者になる
- ☆自然と親しむ会・講演会・報告会・学習会に参加する
- ☆ワーキングツアーに参加する
- ☆ビデオ『森よ、よみがえれ!』を見る
- ☆使用済みテレカ・オレカを集めて送る etc. あなたのご参加を待っています!

1999・1

65

多様性のある森づくりを

8年目をむかえた大同での協力活動

中国黄土高原における緑化協力は8年めにはいりました。この事業の最近の変化・発展はとても大きなものがあります。

土地の人たちはこれまで、苗木を植えたあと、水をやって足で踏み固めてきました。単なる習慣ではなく、技術マニュアルとして要求されていたのです。立花吉茂代表が「黄土は粒子が小さいから、そんなことをしたら根が窒息して枯れてしまう。砂・軽石など通気性材料を加え、踏まないようにしないといけない」とたびたび指摘したのですが、水不足を恐れる地元の技術者はなかなか受け入れませんでした。

一昨年夏からの比較実験を通じて、やっとそのことを理解してもらえました。99年春の植栽にむけ、大同事務所

はそのことを技術要領に記載し、全面的に実施することになりました。これがうまいければ大同市の科学技術奨励賞ものだ、と技術者たちははりきっています。

多様性のある森づくりをめざして、98年春からは、私たちの協力プロジェクトでは最大6種類の混植がはじまりました。これも実現までに何年もかけてきたので、うれしさはひとしおです。

小川眞さんに指導してもらった菌根菌を活用しての育苗はすでに実用化しており、大同県国营苗圃の一角、1.5haで100万本以上のマツ苗が育ちつつあります。経過は上々です。

霊丘県上寨鎮での植物園建設は、急テンポですすんでいます。最終的に86haの土地の10年間の使用権を大同事務所の名義で購入しました。アクセス道路がすでに完成し、電力・水利・管理棟などの工事もまもなくはじまります。

付近でナラ・クヌギ・シナノキ・カエデ・カバノキ・ハシバミ・シモツケなど落葉広葉樹の自然林がみつきり、可能性が大きく広がったために、規模を拡大しました。敷地の一部にも、それらの樹木が自生しています。地元の技術者

は、それらの種子を大量に集めており、来春からはその育苗も本格化します。

寒さと乾燥に強いものを中心に、中国の他地方、国外からも、有用植物を集めることにしています。試験栽培と馴化をへて、有望なものがみつかれば、他のプロジェクトに広げていくこととなります。

長江・松花江の洪水が大問題になりましたが、協力地の一部では旱魃と異常渇水がつづいています。井戸や湧き水が涸れ、存亡の危機に立たされている村があります。昨年夏には1つの村で協力した井戸掘りが成功しましたが、2つめの村でも現在工事中で、2月までには水脈に達する予定です。

中国の母なる大河・黄河の水が涸れる「断流」がつづき、97年はそれが22日にも達したことにみられるように、中国北部の水不足はたいへん深刻です。(石弘之著「地球環境報告Ⅱ」岩波新書参照)

過去40年の気温・降水量などのデータを大同事務所でも解析中ですので、原因についてなんらかのヒントがみつかるかもしれません。

昨年の大洪水や異常渇水をつうじて、中国でも環境問題や植林のたいせつさを訴える声が大きくなり、カウンターパートはこの事業への確信を強めています。日本国内でも、経団連が中心となって、NGOを含めた日中植林協力フォーラム準備会がもたれました。

困難は今年も少なくはないでしょうが、がんばっていききたいと思います。

(高見邦雄)



霊丘自然植物園の上部にはナラ・クヌギなどが自生し、将来への可能性を感じさせる

GREENなんでも勉強会第4期 黄土高原ざっくばらん

外部から依頼をいただいて黄土高原の話をするにはあるけど、大阪でGENのメンバーを対象にしてまとまった話をしたことがないなあ。というわけで、GREENなんでも勉強会第4期はGEN事務局長の高見さんが、大同での緑化協力のあれこれを、ざっくばらんにお話しします。「中国の緑化は中国人の仕事だ、日本人になにができる」といわれながら協力を始めたこと、村で「日本鬼子」と言った男について行き、なんと家に上がってお酒をごちそうになったことなど、いろんな「ここだけの話」が聞けるかも？

●日時：

第1回『もうひとつの中国～内陸部の農村』1月21日(木)

第2回『理解しあうためにするケンカ』2月18日(木)

第3回『緑化協力～到達点と今後の課題』3月11日(木)

※各回とも18時30分～20時30分

●場所：GEN事務所(JR環状線・地下鉄中央線「弁天町」駅徒歩3分)

●講師：高見邦雄(GEN事務局長)

●参加費：3回で2,000円(1回だけの場合は700円)

特定非営利活動法人 (NPO法人) いよいよ申請へ

特定非営利活動促進法が98年12月1日に施行されました。

昨年6月の第4回会員総会の決議にもとづき、世話人会が中心となって、緑の地球ネットワークの法人化の準備をすすめてきました。定款・設立趣旨書その他の案も煮詰まってきましたので、1月末の世話人会(法人設立総会をかねる)で決定し、2月初めにも大阪府に申請する予定です。

緑の地球ネットワーク世話人会

- 日時：1月29日(金) 18時30分～
- 場所：(財)大阪市教育振興公社・クラフトパーク開設準備室(旧精華小学校。難波駅の近くです)

世話人会はどなたでも傍聴することができます。ごつごうのつくかたはおいでください(あらかじめご連絡をお願いします。場所をご案内いたします)。



年末カンパ ありがとうございました

前号の会報で年末カンパをお願いしましたところ、さっそくみなさんのご協力をいただき、ありがとうございました。GENの活動を気にかけていただいているお気持ちをたいへんありがとうございます。

今年も資金難が案じられますが、みなさんのお知恵も借りて、GENの活動を維持するために、資金作りをすすめていきたいと思っています。ご提案・ご協力をよろしくお願いいたします。

使用済みテレカ回収 これからもよろしく

昨年1年間、みなさんからお寄せいただいたテレカなど使用済みカード類は合計で約13万枚、換金すると約68万円の収入となりました。中国山西省黄土高原の緑化協力金として苗木代などに使わせていただきます。

この活動に協力していただいている個人・団体は徐々にひろがっています。最近では小学校から大学まで、生徒会などが中心になって集めていただく学校がふえてきてうれしいことです。

まわりの方に呼びかけていただいたり、収集箱を置くなどしていただくと、GENの活動を多くの方に知っていただくことにもなります。また、書き損じはがきも集めています。引き続きご協力をよろしくお願いいたします。

ご寄付 ありがとうございます

国際ソロプチミストの奈良5クラブをはじめ、各地から、黄土高原緑化協力にずっとご協力をいただいています。昨年12月、国際ソロプチミスト日本財団から支援金50万円をいただきました。植物園の建設をはじめ、重要な段階にさしかかっている事業のために有効に活用させていただきます。

1999 春の黄土高原 ワーキングツアー

昨年長江と松花江流域をおそった大洪水には、いまさらのように森林の大切さを認識させられました。ひたすら経済発展を追い求めていた中国も、環境問題を重視しはじめたようです。

森林の大切さ、水と緑のありがたさは黄土高原でも痛感します。春の黄土高原は見渡す限り黄土色一色。むき出しの乾いた大地から巻き上げられた黄砂は、日本に春を告げ、ハワイ上空でも観測されるそうです。

黄砂のふるさとへの今回のツアーでは、霊丘県の自然植物園での作業や、井戸掘りに協力をした村での通水式、ホームステイなどを予定しています。厳しい環境のなかでたくましく生きる村人たちの素朴な笑顔に、会いにいきませんか。

- 日程：3月25日(木)～4月1日(木)
- 費用：一般＝16万円、学生＝15万円(国際航空運賃、中国国内での交通費/食費/宿泊費、ビザ取得手数料、GEN年会費などをふくむ)
- ※中国国際航空利用、関西国際空港発着。 ※成田発着利用の場合、航空運賃の差額分約3万円高くなります。 ※北京もしくは大同で合流ご希望の方はご相談ください。
- 定員：30人
- 締め切り：2月25日(ただし、定員に達し次第締め切ります。)

GEN自然と親しむ会 春を待つ雑木林を歩こう

万博公園内の自然文化園は広大な敷地にたくさんの樹木が育っています。

冬まった中この時期、植物はどのように春への準備をすすめているのでしょうか。石原先生のご案内で観察します。園内の自然観察学習館も訪ねてみます。また、時間があれば隣接する日本庭園まで足をのびしてみたいかがでしょう。

- 日時：2月7日(日) 10時～14時頃
- 場所：万博公園内自然文化園
- 案内：石原忠一先生(自然と緑を守る大阪府民会議議長・GEN顧問)
- 参加費：一般700円・中学生以下200円(保険料含む・入場料〔自然文化園のみ150円、自然文化園と日本庭園310円〕別)
- 集合：午前10時 自然文化園中央口
- 交通：大阪モノレール「万博記念公園前」下車約10分。バスはJR茨木駅・阪急茨木市駅・北大阪急行千里中央駅からです。
- 持ち物：お弁当・飲物、あれば携帯用図鑑など。歩きやすい靴。
- 申込み：GEN事務所へ2月3日まで。
- ※雨天でも開催します。





会員からのメッセージ
GREEN ECHO
～アンケート回答から～

昨年10月31日、緑色地球ネットワーク訪日団を迎えて東京で開催したシンポジウム『黄土高原での緑化の現状と将来』の参加者アンケートに、たくさんのご協力をいただきました。ありがとうございます。その一部を、ボランティアスタッフの感想とあわせてご紹介します。関東在住のみなさん、ぜひ、今年もGEN 関東 brunchの活動にご参加ください！

また、使用済みテレカにそえていただいたお便りもご紹介します。学校や学級単位で取り組んでくださったり、職場や地域で集めてくださったり、たくさんの方々にご協力いただいています。これからもよろしく願いいたします。

●植林したものの定着率の状況を継続的に知りたい。

中国の方が植林についてどう考えているのかを知りたい。

緑の地球ネットワーク中国大同の設立を望む。

全体の感想としては、もっと質疑の時間をとっていただいた方がバラエティーに富んだ興味深い問答があったのではないかと思います。(AS.)

●全体的にみて良くない。対象をもっと絞り込むべきだと思う。中国からの来客の歓迎が目的なのか、ツアー参加者の同窓会的なものなのか、勉強会なのか、それとも新しいメンバーの獲得が目的なのか、もっとはっきりさせた方がよい。ただ単に代表者が漫然としゃべるだけのようなのは、シンポ参加者に目的意識を芽生えさせることはできないし、面白くないと思う。「せっかく中国の人がきてくれたのだから、ついでにシンポ開こうか」というノリで開かれたわけじゃないんだろうけど...。(T.O.)

●遠田先生の専門的な知識や技術を紹介しながらの話が興味深かった。また上田先生の感想にもあったように、中国の体制的な問題、現地の農民たちとの問題、と境界線を引いてはなかなか解決できない、あるいは見えてこない現状が、自分の仕事上の問題と重なる部分が多く、臨場感をもって聞くことができた。

最後に質問した方もあったので自分だけではないのだと思ったが、私自身ボランティアについて、情熱や苦労話をあまり前面に出されると、引いてしまう、あるいは疑問を抱いてしまう。正直、今日も感じた。

“緑化”は必要だと思う。でも自分がどのように関われるか、まだ考えている。

●遠田先生の植林に対する準備の話は、いろいろな過程をふまないとできない活動なのだと改めて感じさせた。全体としてはGENの会員の集まりのせいかもしれないが、詳しい(内部の)話になると分からなくなった。

フィールドワークの際は植林の知識のみならず歴史・経済を考慮しなければならぬと上田先生はおっしゃっていたが、そうすると祁学峰氏の「理解した後に真の認識がある」という言葉の意味を自分はまだ理解していないと確信せざるをえなかった。(S.W.)

●中国の大同で市民の意識が高まって緑化運動が起これば、相互の協力が得られ地球の環境には良いことです。ぜひ、大きな市民意識が高まっていけば良いと思います。地味な活動であり大変厳しい作業だと考えられますが、長期的に誰でも気軽に参加できていければと思っています。イベントが関西方面中心になっていますが、もっと東京方面でも行われることを願っています。(HA.)

●以前、高見さんの講義を聞いたことがあります。その「実践型」の話に加え、遠田さんから植物研究の話聞いて、より理解が深まった気がします。今後ともNGOとしての「身軽さ」を大切にしつつ、黄土高原緑化のプロとして、ますますのご活躍を期待しています。

今日のシンポジウムについていえば、高見さんの話よりもむしろ訪日団の方々の話す時間を取ってほしかったと思います。

今日お話ししたお二人とも「はじめは仕事義務として関わりはじめてけど、だんだん熱意を持つようになった」といわれていましたが、現地の住民の協力ややる気のほどはどうか、中国人スタッフの苦労話を含めて聞きたかったと思います。

●今日、日本で、大同市の緑化に励む皆さんの話を直接うかがうことができ、とても嬉しかったです。祁学峰さんの話にはまた感動しました。祁さんは本当にいつも正直な人だと思います。一昨年の夏のワーキングツアーに参加したときも、彼の話にはとても感動しました。高見さんいわく、「彼は本当のことをつつみ隠さず正直に話すので、聞く人は感動するのだ」とおっしゃっていましたが、まったくその通りだと思います。

こうして訪日団の方々に関西のみならず東京にもきて話してくださるのも、高見さんはじめ、ほかの日本側のみなさんが、この6年で築き上げてきた日中の交友関係の賜物だと思います。改めてワーキングツアーに参加させていただいたことに感謝しました。

私は特にボランティア活動をしたことがなく、緑化や植林について何の知識もありません。こんな私でも参加できるチャンスを与えてくれ、毎年、春・夏と日本からのワーキングツアーを受け入れてくれる中国側のメンバーにも感謝いたします。

高見さんのお話も、現場の「生の声」として感銘を受けました。3つの条件、社会・環境・人の話は、まさに直接活動されてきた方でないといけない話だと思います。信頼関係というのは、



けんかと仲直りを繰り返して永い間をかけて築かれるものなのだと教えられました。(M.Y.)

●開発経済学の教授が「日本にとってODAは唯一の外交手段だ」と言い切った。確かに軍事力を持たない日本は経済力でアイデンティティを保たなくてはならない。しかし、その使い道をじっくりと見てみると、本当に必要とされているような使い方をされていないことも多い。政府レベルの援助では、どうしても大規模なプロジェクトになりがちである。

私も、あるNGOの主催するキャンプでフィリピンに行き、実際に現場に行くことで体験談からはわからない事をたくさん感じた。今回、このセミナーが、GENの活動を知るきっかけとなったが、先生方の話を聞けば聞くほど現場の深い声を聞き取ることがいかに重要か痛感するばかりである。さらに、現在だけでなく、文化や自然環境を過去にさかのぼって知り、熟考することが必要だと思う。

政府レベルの協力関係では影響の行き届かないところに関わる。それがNGOの最大の魅力だと思う。

そういう意味でGENの活動はNGOとしての魅力を最大限に生かしている。本当に相手側の声をくみとって、決して主体性を奪うのではなく、あくまでサポートの範囲を超えない。そう感じた。

こういった活動をしていると「きりが無い」と考えずにはられない。で

●私たちがいる第一佐多中学校は、木造校舎で自然豊かな学校です。

6つの学校があったけど、生徒数が少なくなってきたので、ひとつの中学校になりました。

みんな、きちんとあいさつをしていて、明るい学校です。教室は、1の1、1の2、2の1、3の1、3の2とあります。全校生徒は、ちょっと少ないけど、みんなやさしくて、元気なばかりです。

ですから、このボランティアに参加させてもらいました。今回初めて、使用済みプリペイドカードを集めました。それは、緑をふやすことは、地球にも

も「なんかやらないとムズムズする」そんな気持ちを持ちつづけて関わっていきたいと思う。

ものすごく一般論になってしまったが、今日の話はとても共感でき、さらに「なるほど」と感じさせられた。どうもありがとうございました。おいらもガンバロー。(K.S.)

●中国と日本の間に不幸な過去があったのは、消すことのできない「歴史」ではあります。でもその事にこだわらず受け入れてくれる黄土高原のおとうさん、おかあさんに会って「大陸は寛大である」と島国の人間として感動しました。

病んだ地球のためにできるひとつとして、植樹に参加できるということは、自分を知るチャンスのひとつだと思っています(言葉も通じない初対面の人間に対して、どう対応してくれるかで、自分が相手にどういう印象を与えているかわかるので)。

たいした事もできませんが、ぜひワーキングツアーでまたお世話になりたいと思っていますので、よろしく願いします。(Y.S.)

大同での新しい意識に期待

中西 直明 (大学院生)

東京でのシンポジウムの際、一点、非常に興味深い話を聞いた。訪日団の副秘書長、邢雁剛さんの言葉であり、またその言葉を上田先生が抽出して繰り返して述べられたことで、その重みは

よく、人間にもいいと思ったからです。また、テレホンカード1枚で10本~15本の苗木をかえるということで、数が少なかったのを、これをえらばせていただきました。

生徒数も少なく、数もあまりないですが、これを中国の黄土高原の緑化に使ってください。

私たち佐多町のような自然が世界中に広がるようにねがっています。

よろしく願いします。

第一佐多中学校 図書部

●もう少しで年もあらたまりますね。いろいろな果実の木は、実をつけ、中

いっそうのものとなったと考える。

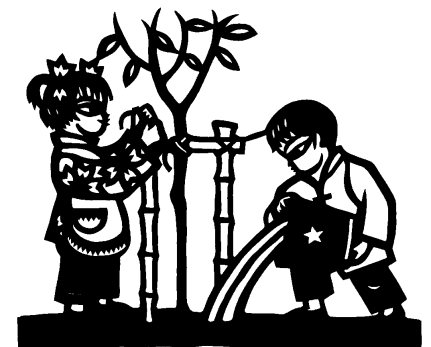
その言葉は、大同市においても緑の地球ネットワークのようなNGO団体を作ろうといった意識が芽生えはじめているというものであった。スタディーツアーに参加する一般の方がたや学生の姿、もちろん世話人の方がたの熱意ある活動を観察することで生まれた意識であろう。個々の自立したネットワークをうたうGENにとってはこのうえない出来ごとではないだろうか—悪循環を断ち切るために—。

今後この流れがどのようにGENの活動と結びついていくのか、その活動自体に大きな影響を与えうるものとも考えられる。しかし、そこにねじ曲げたものを作り出すことにならないよう、たとえそれが良いものであると判断される行動であろうとなかろうと、そこに作為や意図を含んだ行動—援助—があってはならない。おそらく外部のものにできることは、貧困の悪循環にある人びとを救うために、見返りを必要としない活動を繰り返し広げていくことであろう。

僕の知り得る範囲、GENの関係者の方がたは、僕などが上記のようなことを言及するに及ばない人たちばかりである。いずれまた僕も大同の土を踏ませてもらいたいと考えている。

国のまずしい人の役に立っていますか。私は、習い事の帰りなど使用済みテレカをひろって集めています。また中国の人たちに使ってください。

恩智和美



世界の森林と日本の森林 (その17)

立花 吉茂 (緑の地球ネットワーク代表)

●植生破壊とグレージング

グレージング(食う、食いぢぎる)は、野生の草食動物によっても起こるが、ヒトの養う動物すなわち家畜による「食害」は計り知れないほど大きいものである。いままで世界各国の森林や草地を見てきたが、家畜の「食害」のひどさは一般の日本人にはしっかり理解されているとは思えない。その理由は、世界でもまれなほど立派な森林があり、しかも家畜を山に放すことをしないのは世界中でわが国だけだからである。日本人は農耕民族であり、狩猟民族ではないし、仏教国だから殺生禁物で、家畜は最小限度にしか飼わ

ず、山は里山として手を入れ、エネルギー源、有機肥料源として活用された。狩猟民族のヨーロッパ、新大陸、アフリカなど、世界の大部分の地域は、グレージングによって自然植生はひどく破壊されている。それは、次代をになう森林樹木の若木の芽生えが食べられてしまうからである。しかし、同じアジアの農耕民族でもタイ国や中国の山間部では多くの家畜を山に放している。山西省東部の恒山山脈や太行山脈もこの例にもれない。先年訪れた五台山の2,000m級の高地にあったカホクカラマツの林のなかから大きな牛が飛び出してびっくりしたことがある。今回、植

物園候補地探しの太行山脈で、多くの落葉樹林の名残りを見つけたが、1,500mから2,000mあたりまでの傾斜のきわめて強い場所でも行くところすべての場所に羊(ヒツジ)、山羊(ヤギ)の糞のない場所はなかった。

もし家畜を放さなければ、もう500mくらい低地にも落葉樹が分布するに違いない、と考えられた。このことがはっきり証明されるのが、霊丘「流黄水自然植物園」である。ここには「リュウトウクヌギ」などの自然植生が1,500m以上の場所にあるが、もっと下の方へも野生の落葉樹を植える計画になっているからである。もちろん、家畜はシャットアウトされる。家畜を入れないようにすると付近の農家は被害者となるから、何らかの形で彼らに若干の収入源を与えてあげなければならない。10年もすれば、一番低い900mのあたりまで落葉樹が育つであろう。自然林がヒト(家畜)に荒らされて消えたが、ヒトの助けで復活するのを見ることができよう。

緑の中国 歴史篇 21

上田 信 (立教大学教授)

儒家思想を捨てた陳相に対し、孟軻はディベートを挑みます。まず人間の社会が成り立つためには分業が必要であると説きます。この発言、実は落ち着いて検討してみると、水平的な分業と垂直的な分業とをごっちゃにしている論理に破綻をきたしているのですが、ここでは取り上げません。問題は次です。孟軻は突然、議論を飛躍させ、文明論を語り始めるのです。

「むかし、堯のときには天下はまだ穏やかではなく、大水が溢れ、草木は繁茂し、禽獣が繁殖し、穀物は実らなかった。禽獣は人にせまり、けものや鳥の足跡が人の居住地にまで及ぶありさま。堯はひとり憂い、舜を採用して治めさせた。舜は伯益という名の配下に命じて火を司らせた。益は山や沢の草木に火を放ち焼き払ったので、禽獣は逃げ隠れた」。中国古代の伝説の帝王である堯・舜が、草木・禽獣が豊かな森林を焼き払い、開発を始めたのだというのです。帝王たちは全体を統括するために、自ら耕すことはしなかつ

たではないか、と孟軻は結論を出します。これで矛を収めておけばよいのに、ディベートでは禁じられている人身攻撃を始めてしまいます。

「私は〈夏〉(文明)によって野蛮人が変わることは聞いたが、野蛮人のために変えられたという話は聞いたことがない。……いま南蛮から来たモズのような言葉を話す人(許行を指す)が、先王の道は間違っているとしている。君はその師匠に背いてこれを学ぼうとしている。……私は鳥は鬱蒼とした谷を飛び出して、高い木に飛び移ることは知っているが、高い木から降りて谷に入るといことは聞いたことがない」。これは明らかに差別発言です。

戦国時代の後期、楚の感性に基づく『楚辞』には森林を構成する草木・禽獣との親密な交感を見ることができました。しかし、同時代の中原で著された思想書『孟子』には、森林を開発の対象とする発想しか読みとれません。この二つの感性は、その後、どのように絡み合っていくのでしょうか。

メールアドレス・FAX 番号を教えてください

GENでは会報の締め切りに間に合わなかった情報をEメールやFAX、ハガキなどでできるだけたくさんの方にお知らせしています。先日は「種子の整理」助っ人をEメールで募ったところ、思いがけない方たちの参加があり、わいわいにぎやかに作業をしました。

事務所での作業やイベントスタッフなどの「手伝ってください」や、「番組で取り上げられます」とか、「こんなイベントがあるよ」などの緊急情報をGEN事務所からお知らせします。

メールアドレスまたはFAXを持っているけどまだGENに知らせていないという方は、GEN事務所までお知らせください。メールアドレスは、間違いをふせぐためEメールでご連絡をお願いします。



北からの手紙

廣川 純子 (北海道)

二風谷でのツアーに参加してから3ヶ月が過ぎました。早いものです。今年例年より雪が多く、11月だということにもうすっかり積もって冬景色です。でも冬はやっぱりこの位降るのがいいですね。私が小さい頃の写真で冬にソリを持って立っているのがあります。その写真では雪が私の身長よりずっと高く積もっています。同じ場所でもこの頃はそんなに積もりません。冬にちゃんと雪が降ってくれると嬉しくなる私です。二風谷でも今頃はすっかり雪かな？ 二風谷のツアーは楽しかった。そして帰ってから学んだことを活かしたことがよかったなあ……。どのように活かしたのでしょうか。それを今回はお伝えさせていただきます！

私は今、小学校で知的な障害のある子の学級を担任しています。3年生の男の子1人、5年生の女の子1人、の学級です。それぞれ3年生、5年生の普通学級の子もたちと授業などで交流をしているのですが、その5年生の担任の先生が学習発表会で何かアイヌの人々を扱った発表をしたいとちらっと

言っていました。その時、私はツアーに参加することを決めていたので「ちよどいろいろ勉強してくるから役に立てるかも」というように言っていました。そこではまだはっきりしていなかったのですが、参加後、現実味を増して「よし、やろう。」ということに。内容は「オキクルミと悪魔」という既成のオペレッタを大幅にアレンジしたもので、頭につけるマタンプシの製作と踊りの部分が、私の手伝えそうなところでした。マタンプシの刺繍は何とかかな。でも踊りは…。覚えの悪い私はほとんど忘れていました。そこでどうしたかということ、もうこれしかない！ と、再び二風谷で教えてもらおうということになりました。貝澤さんに電話をお願いをしたところ、奥さんの美和子さんが快く引き受けて下さり、担任の先生と張り切って二風谷に向かいました。

貝澤さん宅で開かれた踊りの講習では美和子さんのお友達数名も来てくださっていました。講習ではその担任の先生の覚えがたいへん早く、その方自

身もアイヌの血をいくらかひいているということで「血がそうさせる」などと言っておられました。講習の先生方にたいへん人気を博していたようです(40歳位の男の先生です)。何はともあれ、たいへん楽しい講習会で、貝澤さんにはたいへんお世話になりました。

学校に帰ってから、子どもたちとの刺繍や発表の練習は楽しいものでした。

大人の間には「差別」というものが根強く残っていることですが、子どもにはそんなものは関係ありません。ぐっと集中して刺繍に取り組んだり、生き生きと歌ったり、踊ったりする姿はとても素敵でした。刺繍を教えたあとに「イヤイヤイケレー」と言われた時は、嬉しかったなあ。それと先程の先生が今回のことをきっかけに「すっかり目覚めた！」と言ってアイヌ文化を伝承する活動を始められたことも思わぬ嬉しい結果でした。

そんなこんなで今年もあと一ヶ月。この一年果たして自分は進歩できたかな、と思うと……。?? でもチコロナイに参加しているいろいろな所でいろいろな人に出会えたことがよかったなあと思っています。99年もみなさんにとって良い年でありますように。

ナショナルトラスト “チコロナイ” 現状報告

1999年1月7日までに、第1期からの繰越も入れて全部で6,529,544円が471人から寄せられました。ありがとうございました。

第2期計画の目標は700万円です。1998年12月9日が締め切りでしたが、第3期の計画ができるまで当分受付を続けます。何とか目標を達成し、第1期で入手した山林と地続きの予定地が購入できるようにしたいものです。多くの方々の積極的な参加を呼びかけます。

【“チコロナイ” 連絡先】

武田繁典 〒546-0003大阪市東住吉区今川6-2-6 (TEL/FAX.06-6704-7720)
貝澤耕一 〒055-0101北海道沙流郡

平取町二風谷31-3 (TEL.01457-2-2089
FAX.01457-2-3991)
郵便振替 00900-2-52024
加入者名「チコロナイ」

チコロナイアイヌ語講座 ~いやでもわかるアイヌ語~ 第4期第6回

- 日時：1月23日(土)14時~16時
- 場所：GEN事務所
- 資料代：第4期(6回)分で2,000円
- 問合せ：平石清隆 (TEL. 0745-23-5627)

★『エクスプレス・アイヌ語』(中川裕、中本ムツ子著白水社)の10のところをやります。また、『アイヌタイムズ』も読みます。

1回だけの飛び入りも大歓迎(400円)。

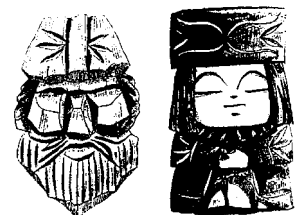
第39回

チコロナイ学習会

- 日時：1月23日(土)16時~18時
- 場所：GEN事務所(06-6583-1719)
- 内容：

「京大アイヌ・沖縄を考える会」の日頃の活動とアイヌモシリツアーの報告を安田さんに話していただきます。

- 参加費：100円+カンパ
- 問い合わせ：武田繁典(左記)
- ★初めての人も、1回だけの飛び入りも大歓迎です。





アジア友好支援コンサート & シンポジウム in 関西 (西宮)

- 日時：1月24日(日) 13時30分～17時
- 場所：西宮市総合福祉センター2F 多目的ルーム (JR「西ノ宮」駅から南へ徒歩5分・阪神「西宮東口」駅から東へ徒歩5分)
- 主催：アジア友好ネットワーク (TEL. 0727-55-5578)AMDA 兵庫支部
- 参加費：1,000円
- 内容：
 - アジア支援・ボランティア実践報告 友好コンサート.....荘魯迅 (シンガーソングライター)
 - アジア友好・支援シンポジウム -共生の時代とアジア支援のあり方 中村尚司氏 (龍谷大学教授) / 荘魯迅氏 / ヒラチャン氏 (関西ネパール協会)

「人間の歴史と地球の温暖化」

- 日時：1月31日(日) 13時30分～16時30分
- 主催：地球温暖化防止京都ネットワーク・小倉山をみつめる会 (TEL. 075-822-0446)
- 場所：常寂光寺・書院 (京都市右京区

嵯峨小倉山小倉町3)

- 講師：上田信氏 (GEN 世話人・立教大学教授)
 - 参加費：無料
- ※1時間程度の講演のあと、Q&Aなどの時間をたっぷりとってあります。

留学生支援に古本を！

- 阪神大震災で被災した留学生支援にはじまった(財)神戸学生青年センターの「六甲奨学基金」の一部とするために、もう読まない本を役立てませんか。
- 送り先：(財)神戸学生青年センター 何やか屋古本部 〒657-0064神戸市灘区山田町3-1-1 TEL. 078-851-2760 FAX. 078-821-5878-MAIL: rokko@po.hyogo-iic.ne.jp
 - 期間：99年3月1日～3月31日の間のみ、ご持参またはご送付ください。
 - 送料は送り主負担をお願いします。
 - ジャンル不問。汚損のひどいもの・雑誌・教科書・参考書・古いコンピュータ解説書などをご遠慮ください。
- ※古本市は3月15日から5月15日まで同センターで開催しています。

ビデオのご紹介

GENの緑化協力のようにと、大同の農村の厳しい環境や生活を紹介するビデオ『森よ、よみがえれ!』は、ツアー参加者をはじめ、教育や報道の現場などからご好評をいただいています。まだ見ておら

れない方は、ぜひご覧ください。

また、いくつかビデオのご案内をいただいたので、あわせてご紹介します。

- 『森よ、よみがえれ!』
 - 28分・5,000円 (会員価格・4,000円)
 - 緑の地球ネットワーク制作
 - 環境事業団地球環境基金制作協力
 - 申し込み：GEN事務所まで
- 『地球温暖化と食糧の未来～2025年からのメッセージ～』
 - 30分・9,500円 (消費税別)
 - JA全中 (JAグループ環境推進協議会・レインボー環境基金) 企画
 - 申し込み：(株)全農映 (〒101-0047 東京都千代田区内神田1-2-6 TEL. 03-5281-8781 FAX. 03-5281-8780)
- ※地球温暖化による気候変動のシミュレーションなど、CGを使って説明。『だれが中国を養うのか』『地球白書』のレスター・ブラウン氏らが解説。
- 『瞬きの詩人～水野源三の生涯～』
 - ドラマ・77分・7,000円 (消費税別)
 - 申し込み：日豊(株)メディア制作部 (〒531-0074 大阪市北区本庄東3-10-27 TEL. 06-6374-0865 FAX. 06-6371-0792)
- ※9歳のとき病気で全身がマヒし、家族と信仰に支えられて50音と瞬きで4冊の詩集をのこした水野源三の生涯。
- ★日豊(株)では、人権や戦争などをテーマにした、学校教材としても好適なビデオ作品を制作販売しています。お問い合わせは上記まで。